

都市研究プラザの新ステージに向かって The Urban Research Plaza Enters a New Phase

都市研究プラザは 2006 年 4 月、都市再生へのチャレンジとして開設された。文部科学省のグローバル COE プログラム（以下、GCOE）に採択された 2007 年度から計 7 年間、所長を務めてきた佐々木雅幸が市大を退職するのに伴い、これまで所長補佐を務めてきた阿部昌樹が新所長に就任することとなった。プラザのこれまでとこれからを、新旧所長が語った。

佐々木／ これまでを振り返ると、成果として主に 3 つが挙げられるでしょう。まず、現場プラザでの活動等を通じて、広く市民にも開かれた広場（プラザ）として機能していること。次に GCOE への申請に際してプラザを当初の「研究機関」から「研究教育機関」へと発展させて、国際公募によって若手研究者を募り人材養成に貢献してきたこと。これは GCOE の事後評価でも高い評価を受けました。3 つ目は早くから社会的包摂の重要性に着目し、「包摂的創造都市」という概念を提唱して国際会議等でインパクトを与え、一つのジャンルとして確立されたことです。これは、国際学術ジャーナル *CCS* の刊行や AUC（都市創造性学会）設立にも大きく寄与しました。

阿部／ 私は、プラザの開設当初からではなく途中から参画したこともあり、ようやくプラザという組織を理解でき、必要性を感じられるようになった段階です。その経験を踏まえますと、プラザは、学内者であっても直接関わりがない者には、存在意義を感じにくいように思われます。学外に向かって発信することも大切ですが、学内での認知度を高めていくことも重要でしょう。

もう一つの課題として、研究テーマの拡充があげられます。都市政治や都市行政あるいは都市の秩序の大枠を形成している法制度等に焦点を合わせた研究を充実させていきたいですね。

佐々木／ 今後の課題は、なんと言っても組織の持続的発展でしょう。幸い、2014 年度からの全国共同利用・共同研究拠点として文部科学省に認定され、第 2 ステップへの足がかりができたと思いますが、気をゆるめることなく進んでいただければと思います。



佐々木前所長（左）と阿部新所長

阿部／ それとともに、「グローバル化」をキーワードに、大学全体の取組とプラザの取組をうまく連結させることも重要な課題です。どちらかというとうちは学部学生も含めた広い意味での国際交流、プラザは院生以上の研究交流を重視してきました。両者の融合を図ることで、プラザがこれまで築いてきた人的ネットワークや研究成果等が大学全体で活用されて、プラザの存在意義が高まると考えます。

佐々木／ 確かにそうですね。新所長の舵取りに大いに期待しています。

*2014 年度からの所属等

佐々木雅幸

同志社大学特別客員教授、大阪市立大学都市研究プラザ特任教授、文化庁・文化芸術創造都市振興室長

専門：都市文化経済学

阿部昌樹

都市研究プラザ所長、法学研究科教授

専門：法社会学

Along with the retirement from Osaka City University of Prof. Masayuki Sasaki, who has served as Director of the Urban Research Plaza for 7 years since 2007, Prof. Masaki Abe, who has until now served as Assistant Director, has been installed as the new Director. Prof. Sasaki cited as his major accomplishments up till now: 1) the fact that the URP functions as a forum or 'plaza' that is open to ordinary citizens, 2) the fact that young researchers have been attracted through an international appeal and the URP has contributed to the fostering of human resources, and 3) the fact that a genre has been firmly established that advocates the concept of the 'inclusive and creative city.' Prof. Abe cited as issues that need to be addressed in the future: 1) taking up research whose vision includes urban politics and urban administration or the legal system in relation to urban affairs, and 2) making it possible for the human network built by the URP and its research results to be utilized by the entire university.

■ 第4回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

The 4th International Roundtable Conference on 'Opening the Century of Cities'

2014年1月31日(金)午後、都市研究プラザと大阪国際交流センターの共催による国際ラウンドテーブル「エスニック・タウン探訪—都市の磁力と文化多様性—」が大阪市立大学高原記念館ホールにおいて開催された。翌日の2月1日(土)午後には、市民ワークショップ「多文化共生へのまなざし」が大阪国際交流センターにおいて国際協カイベント「ワン・ワールド・フェスティバル」の一企画を兼ねて開催された。2010年度から始まった国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」は、学術的な企画とともに広く市民に現代社会の実態や将来展望を認識してもらうことを目的としている。

国際ラウンドテーブルは、長尾謙吉(都市研究プラザ兼任研究員/経済学研究科教授)がコーディネーターを務め、パネリストとして福本拓(都市研究プラザ特別研究員/宮崎産業経営大学講師)、ソン・ミギョン(都市研究プラザ特別研究員(若手))、川本綾(都市研究プラザ特別研究員(若手))が大阪市の生野区や西成区をフィールドとした研究を報告した。コメンテーターを、朴一(経済学研究科教授)、谷富夫(都市研究プラザ特別研究員/甲南大学教授)、片岡博美氏(近畿大学准教授)、良元現雄氏(生野コリアンタウン)が担った。今回の特徴は若手の報告をめぐって経験豊富な研究者と現地の方々で議論することであり、参加者にとって「ご講和拝聴」とは異なるさまざまな刺激を受ける場となった。

市民ワークショップは、当事業を継続して牽引する中川眞(都市研究プラザ兼任研究員/文学研究科教授)がコーディネーターを務めた。市民に「多文化社会」を実感してもらうことを意識して、パネリストとして琉球出身で大阪在住の音楽家の牧志徳氏、八尾市を拠点に在日コリアンの民族教育やベトナム人の生活支援を行う高橋佳代子氏(NPO トッカビ)、大阪暮らしの在日コリアンであり国内外でパフォーマンスを披露するダンサーのやんぢゃ氏、「多文化社会」マレーシアにおいて社会性の高いアートプロジェクトを展開するアートワーカーのリュウ・ピッスヴオン氏とドキュメンタリー作家のファミ・レザ氏が、それぞれ個性的なトークとパフォーマンスを披露した。会議室が会場であったがワークショップはライブ感あふれ、市民に「文化多様性」と「多文化共生」について実感し考えるきっかけを与えたであろう。

■長尾謙吉(都市研究プラザ兼任研究員/経済学研究科教授)



国際ラウンドテーブルの様子



市民ワークショップの様子

Since 2010, the Urban Research Plaza and the Osaka International House Foundation have co-organized the meeting 'Opening the Century of Cities'. On January 31, 2014 an International Roundtable on 'Exploring Ethnic Towns' was held at Takahara Hall, Osaka City University. Three promising junior scholars, Taku Fukumoto, Mikyoung Son and Aya Kawamoto, presented their studies on ethnic enclaves in Osaka. On February 1, 2014 a Citizens' Workshop on 'Gaze to Multicultural Society' was held at the Osaka International House. Mr. Shitoku Maki (Ryukyu musician), Ms. Kayoko Takahashi (NPO leader), Ms. Yangjah (dancer), Mr. Lew Pik-Svonn (art worker from Malaysia), and Ms. Fahmi Reza (writer from Malaysia) were invited as guest speakers (and performers).

■ 社会的包摂と自己表現

～イタリア仮面劇ワークショップ

Social Inclusion and Self Expression– a workshop in Italian masque drama

2014年3月14日(金)、15日(土)、あいりん地区にある西成区単身高齢生活保護受給者をサポートする施設「ひと花センター」にて、ボローニャから来日中のフラテルナル劇団の指導によるワークショップ(共催:都市研究プラザ・ひと花プロジェクト)が開催され、釜ヶ崎の元日雇い労務者等のべ20名が参加した。この劇団はボローニャのホームレス支援団体から生まれた仮面劇団で、イタリアで16世紀から18世紀にかけて流行した即興仮面劇「コンメディア・デッラルテ」の伝統を受け継ぎ、ホームレスとの創作活動を通じて社会的包摂を実現する活動を行っている。通訳はボローニャから大阪大学大学院に留学しているコマストリ・キアラ氏。前半は、マッシモ・マッキヤヴェッリ氏から仮面の特徴、それぞれの階層の性格、歩き方などの実演があり、参加者は仮面をかぶって動きの練習をした。後半は、3つの場面が設定され、それぞれの役作りについて、マッシモ氏の演技指導をキアラ氏が身振り手振りを交えて通訳し、参加者は見る間に上達していった。16日(日)、西成プラザでの「ひと花プロジェクトシンポジウム」(主催:ひと花プロジェクト連合体)では約80名の観衆を前に、9名がワークショップの成果を熱演した。

■ 上村修三(都市研究プラザ RA(*))



ワークショップでの演技指導

On March 14 (Fri) and 15 (Sat) of 2014 a workshop was held at Nishinari-ku under the leadership of the Fraternal Compagnia drama group from Bologna who are visiting Japan, and as many as 20 single elderly welfare recipients took part. This drama group, which presents masque drama, began from groups that give aid to Bologna's homeless, and through creative activities together with the homeless they work to bring about social inclusion. On the 16th (Sun) at the 'One Flower Project Symposium' at Nishinari Plaza, 9 people enthusiastically performed the results from the workshop before an audience of about 80 spectators.

■ URP INTERNATIONAL COLLOQUIUM

"On Urban Change, Gentrification and Neighborhood Regeneration in Osaka"

2014年3月24日(月)、高原記念館において標記の事業(大阪市における都市変化、ジェントリフィケーション、地域再生についての国際コロキウム、主催:都市研究プラザ)が開催された。水内俊雄(都市研究プラザ副所長/文学研究科教授)および都市研究プラザを中心にした若手研究者と、招聘したドリーン・マッシー名誉教授(英国、オープン大学)との濃密なダイアログを実現するために、小規模なゼミスタイルをとった。教員、他大学研究者が18名参集し、近年、大阪市の都心とインナーシティにおける社会経済的な変容を背景に、大阪市が展開してきた都市再生策の概要を水内が説明後、若手研究者3名が西成区北西部、西区堀江北西部、北区中崎町界隈について発表した。マッシー名誉教授のコメントを受けながら、大阪市におけるソーシャルミックス、新自由主義、ジェントリフィケーションの概念についての熱いディスカッションが続いた。ポリティカルに大変鋭敏であるマッシー先生との出会いで新しいアイデアが生まれ、若手研究者にとって貴重な体験となった。

- ヒュラルド・コルナトウスキ(都市研究プラザ特別研究員(若手))
- ソン・ミギョン(都市研究プラザ特別研究員(若手))
- ヨハネス・キーナー(都市研究プラザ特別研究員(若手)/文学研究科後期博士課程)



コロキウム発表者たちとマッシー名誉教授(左から3人目)

On 24 March 2014, the URP invited Prof. Doreen Massey (The Open University) to Osaka City University. In order to facilitate some discussions with her, Toshio Mizuuchi (URP Vice Director) and a group of young researchers organized a colloquium on current patterns of gentrification in the city of Osaka. The presentations focused on specific areas such as NW Nishinari, NW Horie and Nakazaki-cho which are experiencing tremendous changes, yet with different characteristics. These were followed by an extensive discussion on conceptual issues of social mixing, neoliberalism and gentrification, and practical solutions to urban revitalization.

■国際円座

「伝統都市の比較類型史—日本とフランスの場合」

International Round Table on the 'History of Comparative Categories of Traditional Cities—the case of Japan and France'

2014年3月6日(木)・7日(金)の2日間にわたり、大阪市立大学高原記念館において国際円座が行われました。2005年以来、都市史研究グループである「グループとらっど」では、日本とフランスの都市社会史をめぐる研究交流が行われ、2011年12月にはアナル誌に日本近世史特集が組まれるなど、大きな成果を上げてきました。一方、塚田孝(文学研究科教授)を研究代表とする科研プロジェクト「近世大坂の『法と社会』—身分的周縁の比較類型論にむけて—」は国際的な比較史研究を進めており、今回の円座は両者の協力のもと、日仏比較都市史研究を次のステージへと引き上げることを目的に、近世大坂研究会・UCRC・URP都市論ユニット・都市史学会・日仏二国間交流事業セミナーの主催で開催されました。

1日目はセッションI「都市の由緒と集団・家の由緒」を行い、クラリス・クロム氏(グルノーブル大学准教授)が「フランス近世における都市起源『神話』—都市と『自由』の希求—」、塚田孝が「垣外仲間の由緒と四天王寺」、ヤニック・バルディ氏(トゥルーズ第二大学講師)が「泉州における神社と人びと」と題した報告を行いました。フランスの都市が有する「神話」のような都市起源は、都市の政治的自由を証明するために作られたもので、政治状況によって時期区分が可能であることや、そうした都市起源神話から史料批判を伴う歴史認識が連続的につながっていることなどが明らかにされました。一方、近世大坂(あるいは日本)の場合、都市の由緒は少なく、まして神話に遡ることもないのに対し、仲間や家レベルでは由緒が多数創出され、神話や古代に遡る場合もあることが述べられ、由緒に焦点を合わせることで比較史の新たな視野が拓かれることが共有されました。

2日目は、フランスにおいて近年の日本近世史研究がどのように捉えられているのか、またフランス近世史の近年の動向を考えるべく、セッションII「フランス歴史学会の文脈における日本近世史の意味」を行いました。アナル誌で日本近世史特集を組んだ試みについてギョーム・カレ氏(社会科学高等研究院准教授)が「アナル特集号『日本における身分論』の序文について」と題した報告を行い、日本とフランスでは論文の文体・スタイルや史料の扱い方に大きな違いがあるなかで、真の国際交流のために可能な限り日本の論文のスタイルや史料の活かし方などを紹介したいと考え、同誌の編集者を了解させることに苦労したことなどが紹介されました。また、マルクス主義歴史学が日本とフランスの史学史にしめる位置は大きく異なるため、日本の史学史を説明する必要があったことも述べられました。

その上で、フランス史のフランソワ＝ジョゼフ・ルッジウ氏(パリ第四大学(ソルボンヌ)教授)とエリー・アダット氏(社会科学高等研究院准教授)によるアナル誌特集に対する書評が紹介されました。続いてアナル誌に論文を執筆した吉田伸之氏(飯田市歴史研究所所長)・森下徹氏(山口大学教授)・吉田ゆり子氏(東京外国語大学教授)・塚田孝がコメントをし、総合討論に移りました。その議論は、両国における歴史研究が20世紀にどのような展開をとげ、現在に至っているのか、研究交流のためには相互の研究背景にまで迫るべきだ、という点などが話題となり、非常に興味深いものとなりました。2日目の成果は、今秋に学会誌の特集号で発表される予定です。

2日にわたり濃密な議論が行われ、日本とフランスの都市史が具体的なレベルにおいて比較が可能であることが示されるだけでなく、両国の史学史にも話が及び、今後の交流を考える上で良い機会となりました。

■三田智子(都市研究プラザ特別研究員(若手))



左2人目からクラリス・クロム氏、ヤニック・バルディ氏、ギョーム・カレ氏

On March 6 and 7 of 2014 an international round table was held at Osaka City University intended to deepen interaction between Japan and France regarding research in urban history.

At Session I, 'The Origin of Cities and the Origin of Groups and Families,' it was made clear that the urban creation 'myths' of French cities can be divided into periods according to political circumstances, and there was clarification of the characteristics of histories at the level of the city, milieus, and families in the case of early modern Osaka.

At Session II, 'The Meaning of Japan's Early Modern History in the Context of French Historical Societies,' there were comments from both French and Japanese researchers about the special issue on Japan's early modern history that was published in the journal *Annales* in 2011. They looked back on the long span of historical studies in both countries and there was a deeply significant discussion.

■ 第12回バンコク都市文化研究フォーラム

The 12th Urban Cultural Research Forum: Arts and Social Outreach – Designs for Urban Dignity

バンコク都市文化研究フォーラム「アートと社会的支援—都市的尊厳への仕組み」が2014年3月3日(月)～4日(火)にかけてバンコク・チュラロンコン大学で開催された。このフォーラムは同大学芸術学部とURPサブセンターによる共催であり、今年で第12回目を迎えている。

1日目はDeeyah Khan氏(映画・音楽ディレクター、人権運動家)による基調講演および上映会を中心に、ノルウェー、スロベニア、タイにおける映画や音楽を用いた戦争遺跡の活用、子どもや若者、障害者を対象にしたアートの社会的支援の諸事例が報告された。

2日目は都市的尊厳とそのエンパワーメントに焦点がおかれた。Evelin Gerda Lindner氏(Human Dignity and Humiliation Studies設立者)やAnne Cathrine Eklund氏(平和運動家)はパレスチナやマイノリティに対する無差別テロなど、屈辱の経験が排除に変わるグローバルな現象からそれに対抗する尊厳性の発信をアートの役割として提起し、関連した諸問題が活発に議論された。

なお、プログラムには同大芸術学部博士課程生によるアートの社会的介入プロジェクトの報告会が含まれ、デモクラシー、性、自然との共存など、バンコクの今日に対する若いアーティストの認識や表現が生き生きと伝わった。

■全ウンフィ(都市研究プラザ特別研究員(若手)(*))



フォーラム会場の様子(チュラロンコン大学)

The Bangkok Urban Cultural Research Forum on ‘Arts and Social Outreach—Designs for Urban Dignity’ was held on March 3 and 4 of 2014 at Chulalongkorn University in Bangkok. While reports on various case studies of social outreach through the arts from different places were presented, there was also an active debate about how the arts are related to contemporary humanitarian problems on both a global and a local level.

■ 第12回ジョグジャカルタ都市研究フォーラム

The 12th Urban Research Forum: Making New Cultural Tradition for Sustainable City

2014年3月8日(土)、インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校にて第12回都市研究フォーラムが開催された。このフォーラムは都市研究プラザ、インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校、そしてガジャマダ大学文化科学部の3大学共催によって運営されているものだ。

当日はインドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校のHermin Kusmayati学長によるウェルカムスピーチと、パフォーミングアーツ学部の学生が伝統舞踊を披露した後、“Making New Cultural Tradition for Sustainable City”というテーマのもと、以下の8名による発表が行われた。Widya Nayati氏(ガジャマダ大学文化科学部専任講師)、水内俊雄(都市研究プラザ副所長/文学研究科教授)、Hesti Rahayu氏(インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校ビジュアルアーツ学部講師)、Citra Aryandari氏(インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校パフォーミングアーツ学部講師)、Harry Kurniawan氏(ガジャマダ大学工学部講師)、高岡伸一(都市研究プラザ特任講師)、Yulita Kusuma Sari氏(ガジャマダ大学文化科学部講師)、Joned Suryatmoko氏(ガジャマダ大学修士課程)(発表順)。テーマはツーリズム、ストリートカルチャー、都市景観や建築など多岐にわたり、会場も含めた積極的な議論が交わされた。

■高岡伸一(都市研究プラザ特任講師)



フォーラム会場の様子(ジョグジャカルタ校)

On March 8 (Sat) 2014, the 12th Annual Urban Research Forum was held at the Indonesian Institute of the Arts Yogyakarta. Based on this year’s theme ‘Making New Cultural Traditions for Sustainable Cities,’ 8 researchers from the URP, the Indonesian Institute of the Arts Yogyakarta, and from Gadjah Mada University made presentations and held an active discussion that included members of the audience.

■URP 特別研究員（若手）合評会

3月11日（月）、2013年度第2回目の都市研究プラザ・URP 特別研究員（若手）研究発表会（合評会）が、高原記念館・研究棟1階・交流スペースで開かれた。本発表会は、GCOE 終了後も同事業によるグローバルな学術拠点として旺盛な活動を展開している都市研究プラザの GCOE 継続事業として、9月と3月の年2回開催している。

同日は、昨年9月の第1回目に次ぐ第2回目の研究報告で、16名の研究員からの報告の後、受け入れ教員を交えて研究進捗状況の確認、そして研究内容に関する質疑討論を行った。実施要領は第1回目と同様に、5分報告の後、10分間の質疑討論を行う形で進められた。中には香港とパリに滞在している報告者がいたため、スカイプを通じた画像会議の形をとり、報告と質疑討論を行った。今回の報告梗概は、都市研究プラザのホームページに掲載し、公開している。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/2014/03/20140311urp.html>

■全泓奎（都市研究プラザ教授）

▼当日の発表者（発表順）

中村光江、岡戸香里、中谷惣、Geerhardt KORNATOWSKI、川本 綾、Johannes Kiener、菅野 拓、永井 泉、山田信博、DANNie De FAZIO、信藤博之、全ウンフィ、ソン ミギョン、齊藤紘子、島崎未央、安田恵美

▼司会

午前：川井田祥子（特任講師）、午後：櫻田和也（特任講師）

■URP-Information

平成 26 年度 大阪市立大学国際学術シンポジウム

「包摂型創造都市と文化多様性」開催のお知らせ

都市研究プラザでは、公益財団法人大阪国際交流センターとの共催により、2014年7月22日（火）～24日（木）の3日間、大阪国際交流センターにおいて、国際学術シンポジウムを開催いたします。

「包摂型創造都市と文化多様性」というテーマのもと、これまで都市研究プラザが行ってきた活動の集大成として第5回を数えるまでになった国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」（22日）及び、世界的に多くの研究者が集まる国際学術カンファレンスである、国際都市創造性学会 AUC（Association for Urban Creativity）年次大会（23日）をシリーズで開催いたします。なお、2日目の AUC では、世界的に学術発表論文を募集、EARCAG 学会とも連携した学術研究発表大会を行います。3日目（24日）には、AUC のエクスカッションとして岡野教授による大阪市立自然史博物館・大阪市立大学付属植物園訪問も予定されております。

22日の国際ラウンドテーブル会議には、「ノーベル賞はこうして決まる：選考者が語る自然科学三賞の真実（創元社）」を執筆した、アーリング・ノルビ教授、前文化庁長官の近藤誠一氏、ユネスコ事務局長補であるフランシスコ・バンダリン氏らが、また、23日の AUC には、ニューヨーク市立大学のシャロン・ズーキン教授らが登壇される予定です（当日プログラム等は都市研究プラザのホームページに掲載、随時更新されます）。 ■堀 裕典（都市研究プラザ特任講師）

■イベント・研究会の予定

各詳細は都市研究プラザホームページをご覧ください。

- 5/15 踊り研究会（第2期）
…船場アートカフェ 第2ユニット
- 5/21, 6/18, 7/16 インクルーシブ・カフェ
…應院 第1ユニット
- 5/27 スリヤサンキートワークショップ vol.8
…船場アートカフェ 第2ユニット
- 5/28～（毎月1回、全10回）
社会包摂型アートマネジメント・プロフェッショナル
育成講座
…船場アートカフェ 第2ユニット

7/22～24 平成 26 年度
大阪市立大学国際学術シンポジウム
…大阪国際交流センター
※詳細→ <http://www.auc3rd.com/>

■特別研究員（若手）公募

URP 特別研究員（若手）募集要項（平成 26 年 8 月募集分）は、2014 年 7 月に公表を予定しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>

■URP-Newsletter の次号発行は 2014 年 8 月の予定です。

※記事の執筆者名の最後に(*)と記載された肩書は 2014 年 3 月末時点のもので

URP

Osaka City University | Urban Research Plaza
大阪市立大学 | 都市研究プラザ

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年 4 月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。2007-11 年度グローバル COE 拠点「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」の実績をさらに発展させ、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138 tel.06-6605-2071

e-mail : office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp

所長 阿部昌樹 副所長 水内俊雄 岡野浩 宮崎良三

ユニット長 1U 阿部昌樹 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第 23 号

編集長（発行責任者）阿部昌樹

副編集長 水内俊雄 岡野浩 全泓奎

編集主幹 川井田祥子 野村侑香

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>